

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2008/11/25	連携先名称	長和町
活動状況	継続中	連携先窓口	長和町役場
活動資金	補助金・寄付金・大学予算	担当教員(所属)	食料環境経済学科 大浦裕二、堀部篤、増田敬祐
活動体制(単位)	学部	関連教員(所属)	経済学科教員
活動内容	<p>○4月から3月まで年間12回の実習と地域との交流、そのうち1回地域連携先である長和町の方々を招き、農大世田谷キャンパスでミニシンポジウムの開催(12月)</p> <p>○地域農業団体・行政と連携した圃場作業とその収穫物をもとにした特産品開発</p> <p>○地域の団体との交流活動、若集会との道普請などの共同作業、大山獅子祭、おたや祭など伝統行事への参加、地域の運動会への参加</p> <p>○山村再生プロジェクト学生委員会の調査と報告会、小茂ヶ谷地区の調査と報告</p> <p>○「長和町東京農大教育支援協議会」での報告と課題の検討</p> <p>○学生によるPDCA実施と計画の検討による「『実学主義型』アクティブラーニング」の実施、班活動のプランニングと実践</p> <p>○国際交流、留学生との文化体験交流(台湾国立中興大学、中国農業大学、アメリカセントオラフ大学)</p>		
活動成果	<p>○長和町での11回の実習と地域との交流による関係人口の創出</p> <p>○農大世田谷キャンパスでのミニシンポジウムによる本プロジェクトの展望と課題についての共有</p> <p>○特産品開発品目、6品目の達成</p> <p>○若集会との交流、祭への参加などによって地域活性化の一翼を担った</p> <p>○山村再生プロジェクト学生委員会による調査と報告会、報告資料の作成の実施</p> <p>○「長和町東京農大教育支援協議会」の前で学生主体の報告会の開催</p> <p>○班活動のプランニングと実践、作業着開発班、映像広告班、商品開発班</p> <p>○「食と農の博物館」での公開講座の開催</p> <p>○デニムメーカー「キャントン」との共同作業着開発が各新聞、メディアに取り上げられた</p> <p>○留学生との文化体験交流の実践</p>		
課題・改善点	<p>○予算の問題、山村再生プロジェクトは学生の人気が高く、参加希望者が増えているが、予算不足で全員参加が出来ない。</p> <p>○班活動の活発化に関する問題、学生が主体的にプランニングする活動に大学として限られた範囲の中でどのように応じていくかの問題。</p>		